

白保リゾートホテル問題連絡協議会  
会長 山城吉博  
渉外担当 柳田裕行

## 会見資料

株式会社日建ハウジングが計画している（仮称）石垣島白保ホテルプロジェクトについて

### 1. 県もサンゴ礁生態系への懸念 地下浸透排水による影響は、県全体に共通する重要な問題

沖縄県から開示された文書のうち、開発許可に関する意見照会に対する回答文書で、次の関係部署は、地下浸透排水による海域への影響を懸念していることが明らかになりました。

- ・ 県環境部自然保護課
- ・ 県水産課
- ・ 八重山保健所

これらでは、法令違反は特になく、と回答されていますが、計画に対しての懸念が示され、配慮を求め、利害関係者との合意形成を求める意見が出されています。これは、この開発計画が、環境保全のための規制や基準が未整備な部分について、制限を受けることなく開発許可を得ていることが原因となっています。具体的には、環境省や沖縄県衛生環境研究所の報告によって、窒素やリンなどの栄養塩が陸域から流出してサンゴ礁海域に重大な悪影響を与えることと、その目安となる濃度基準が示されているにもかかわらず、沖縄県では、地下浸透排水についてのサンゴ礁保全のための具体的な規制が実施されていないのです。県の各関係部署としては、影響を懸念しつつも強制力のない「意見」として示すしかなかったのだと考えられます。県からの説明にもありましたが、そもそも開発許可制度は、環境アセスの対象となる超大型開発案件を除いて、周辺の貴重な自然環境に影響を与えるかどうかを許可の基準にしていません。だから県が環境保全のための別の基準や規制を独自に定めない限り、環境に影響する恐れのある開発計画でも開発許可が出されるということです。

これは白保に限ったことではありません。県がサンゴ礁海域への窒素やリンの流出についての規制基準を定めていないことで、サンゴ礁の海を観光の売り物にしているにもかかわらず、観光のための開発によってサンゴ礁が減少して、観光業が悪化してしまうという皮肉なことになってしまいます。今後、当会としては、これらの文書をもとに県に対して、保全の必要性の高いサンゴ礁海域の沿岸部での開発行為に関わる地下浸透排水について、具体的な規制基準の設定と保全のための施策を要望していくことを検討しています。

### 2. 株式会社鴻池組、積水ハウス株式会社に対する公開質問状について

公開質問状を出した理由は、貴重なサンゴ礁生態系への悪影響の懸念があり、周辺住民も反対し、訴訟にまでなっている開発計画について、CSR として環境活動に力を入れ、生物多様性の保全を指針としているような企業がかかわることを知って、非常に驚き、理解に苦しんだからです。企業の社会的責任が重要な指標として業績や株価にも影響する現代、これは企業にとって非常に重要な問題だと考えます。必要があれば、両社の大阪本社まで出向いて面会したいと考えています。

以上

<別途資料> 1. 開発許可に関わる意見照会への回答文書（県環境部自然保護課、水産課、八重山保健所、環境省石垣自然保護官事務所）、2. 公開質問状（株式会社鴻池組、積水ハウス株式会社）